

本編⑥「儀法 vatta 犍度（小品第八：行儀作法）」2020.7.11

比丘（同士）の行儀作法についての「犍度（体系的にまとめたもの）」

①客比丘の儀法：精舎と旧比丘（精舎に元からいる比丘）に対して

世尊がサーヴァッティの祇園精舎におられたとき、「客 āgantuka 比丘」たちが：草履のまま saupāhana、傘蓋を持ったまま chatta-paggahita、頭を覆ったまま oṅṅhita、大衣を頭に乘せたまま sīse pi cīvaram karitvā、境内 ārāma に入った。飲用水で足を洗った（同程度にきれいな水でも汲んで何かに入れてあるから困る。釈尊の各個人のためはもちろん共同生活のための衛生への対処）。

年長の「旧 āvāsika 比丘（元から住んでいる比丘）」を敬礼しなかった。

臥座処を問わなかった（⇒空いた部屋があるのかどうか確かめなかった）。

↓

ある客比丘が、無住の精舎の楔（棒）を外して扉を開くと同時に入り、梁から肩に蛇が落ち、彼は恐れて叫び声を上げた。比丘たちが駆け寄って upadhāvitvā どうして叫び声を上げたのかと聞けば、それまでのそそっかしい行動を説明。

（悟ってないのは間違いないが、行儀が出来ていないのは育ち（階級）のせいとは限らない。召使に何でもやってもらっていた人が出家して自分でできない人もいるかも。）

↓

釈尊：「では、客比丘がおこなうべき vattitabba 客比丘の儀法 vatta を制定します」。

※個々の比丘に対する規定なのに、二二七の具足戒に入らない。なぜ？

※全部、サティでおこなう。

○場所の確認など：

客比丘は境内に入るとき、草履を脱いで叩いてから持ち、傘蓋を下ろし、頭の覆いを外し、大衣を肩に乗せ、ゆっくりと ataramānena 入るべし。

入ったら、（声を出さずに）旧比丘たちはどこに退いている paṭikkamati かと観察すべし sallakkhetabba。旧比丘たちがいる講堂 upatthānasālā や天幕 maṇḍapa や樹の下に行き、一方に鉢を置き、一方に大衣を置いて、適当な座処に paṭirūpam āsanam gahetvā 座すべし。（おそらく、気づいてもらって尋ねてもらってから→）

飲用水 pāniya と用水 paribhojaniya を問うべし、どちらが飲用水かどちらが用水かと。飲用水は飲み、用水はそれで足を洗うべし。足を洗うには、一方の手で水を灌ぎ、もう一つの手で洗うべし。一方の手で水を灌ぎ、しかもその手で洗ってはいけません（水がもったいない）。

草履を拭く布を尋ねて草履を拭くべし。草履を拭くときは、最初は乾いた布

で拭くべし。後に、濡れた布で拭くべし。草履を拭く布を洗って、一方に置くべし。

旧比丘が年長ならば敬礼すべし *abhivādetabbo*。新参ならば敬礼させるべし。

臥座処を問うべし。どの臥座処が私に得られるかと問うべし。[臥座処が] 無住か有住（相部屋）かを問うべし。[その地域が托鉢などしやすい] 親近 *gocara* (*congenial*)か非親近 *agocara* かを問うべし。学地認定の家 *sekhasammatāni kulāni*（信者だが貧しいので托鉢すべきでない〈招待されたら行って食してよい〉家）を問うべし。

大便所 *vaccatṭhāna*、小便所 *passāvattṭhāna*、飲用水（の場所）、用水（の場所）、杖（の場所）を問うべし。

サンガの約定所 *saṅghassa katikasaṅṭhāna*（地域ごとの決め事を決める場所）を問うべし、いつ入り、いつ出るべきかと問うべし。

○精舎（クティ）に入るときの作法：

無住の精舎で、戸を叩いてしばらく待ち、楔を外して戸を開き、外に立って[中を] 窺うべし（慌てて入ると蛇がいるかも）。

〈部屋の物を出して部屋を掃除〉

精舎が汚れ（無人で）*uklāpa*、床（とこ：低いベッド）に床を載せ *mañce vā mañco āropito* 椅子に椅子を載せ *pīṭhe vā pītam āropitaṃ*（あるべき場所に設置してあるの意味？）、臥座具が上に積んである（普通の状態）なら、できるなら *sace ussahati* 掃除すべし（サソリなどがいないかどうか、臥座具や部屋のチェックにもなる。臥座具は、出して置く間に自動日光消毒）。まず、地面の敷き具を出して一方に置く。床の脚を出して……。シーツと枕を出して……。座具の敷物を出して……。床（とこ）を低くして上手に扉の枠に擦らないように当てないように出して一方に置く。椅子を低くして上手に……。痰壺を出して……。もたれ板を出して……。〈出した物をきれいにして元どおりに入れる〉

もし精舎に蜘蛛の巣があるなら、よく確認してそれから取り除くべし。窓枠を拭くべし。赤土で塗った壁が汚れていたら、布を濡らして絞って拭くべし。黒色の地面が汚れていたら、……。何もしていない地面ならば、水を撒いて掃除し、精舎が塵で汚れないようにすべし。塵を集めて一方に捨てるべし。

地面の敷き具を乾かし、清め、打ち、運び入れ、元のとおりに敷くべし。床の脚を乾かし、払い、運び入れ……。床を乾かし、清め、打ち、低くして上手に扉の枠に擦らないように……。椅子を乾かし、清め……。シーツと枕を……。座具の敷き物を……。痰壺を乾かし、拭い……。もたれ板を乾かし、払い……。

〈自分の物を置く〉

鉢と大衣を納めるべし。鉢を納めるときは一方の手で鉢を取り、もう一方の

手で床の下あるいは椅子の下を触ってから納めるべし。何もない処 *anantarahita* (露地) に置いてはいけません (落し物のよう)。大衣を納めるときは一方の手で大衣を取り、もう一方の手で衣架 (*cīvaravaṃsa* 竹製) あるいは衣縄 (*cīvararajju*) をこすってから *pamajjitvā*、端を外側に中をこちら側にして大衣を納めるべし。
〈日常の保全〉

もし東から塵風が吹いたら東の窓を閉じるべし。西、北、南……。寒いときは昼に窓を開け夜に閉じるべし。暑いときは昼に窓を閉じ夜に開けるべし。

室 *pariveṇa* が汚れたら掃除すべし。門屋 *koṭṭhaka*……講堂……火屋 *aggisālā*……厠 *vaccakuṭi*……。飲み水が無ければ補充すべし。用水が無ければ補充すべし。洗濯甕に水が無ければ水を灌ぐべし。以上が客比丘の儀法なり。

②旧比丘の儀法

あるとき、旧比丘たちは客比丘たちを見ても座を勧めず、足を洗う水・足台・足を拭く布を置かず、迎えて鉢と大衣を受け取ることをせず、水が必要かと問わず *na pāniyena pucchati*、年長の客比丘たちを敬礼せず、臥座処を設けなかった。

少欲の比丘たち (どちら側?) が *ye te bhikkhū appicchā te ujjhāyanti* イライラ・焼く *khīyanti* 怒る *vipācenti* 悩む。「どうして旧比丘たちは客比丘たちを……」。彼らが世尊に報告。「本当ですか?」「はい」。

釈尊:「では、旧比丘がおこなうべき *vattitabba* 旧比丘の儀法 *vatta* を制定します」。

○年長の客比丘に対する旧比丘の儀法

年長の客比丘を見たら (年下に見えたら客比丘本人が近づくまで待つ?)、座を勧めるべし。足を洗う水・足台・足を拭く布を置くべし。迎えて鉢と大衣を受け取るべし (ここでやっとな。文が乱れている跡は見られない)。水が必要かと問うべし *pāniyena pucchitabbo*。

もしやった方がよいなら *sace ussahati*、草履を拭くべし。草履を拭くときは、最初は乾いた布で拭くべし。後に、濡れた布で拭くべし。草履を拭く布を洗って、一方に置くべし。

客比丘を敬礼すべし *abhivādetabbo*。

臥座処を設け、「これがあなたの臥座処になります *pāpuṇāti* (get to learn)」と告げるべし。[臥座処が] 無住か有住 (相部屋) かを告げるべし。親近 *gocara* (*congenial*: 註釈「親近の家 *gocaragāma* には、近くても遠くても適時に托鉢すべし」) と、非親近 *agocara* (註釈「非親近の家とは、邪見の家、乞食を制限する家」) を告げるべし。学地認定の家 *sekhasammatāni kulāni* (信者だが貧しいので托鉢すべきでない〈招待されたら行って食してよい〉家) を告げるべし。

大便所 *vaccatṭhāna*、小便所 *passāvattṭhāna*、飲用水（の場所）、用水（の場所）、杖（の場所）を告げるべし。

サンガの約定所 *saṅghassa katikasaṅṭhāna*（地域ごとの決め事を決める場所）を告げ、いつ入り、いつ出るべきかと告げるべし。

○年下の客比丘に対する旧比丘の儀法

客比丘がもし新参者 *navaka* なら、座ったまま告げるべし：ここに鉢を置き、ここに大衣を置き、ここに座すべし、と。

飲用水 *pāniya* と用水 *paribhojaniya* を告げるべし。

草履を拭く布を告げるべし。

（客比丘が新参なので）客比丘に敬礼させるべし *abhivādāpetabbo*。

臥座処を「これがそなたの臥座処になる」と告げるべし。〔臥座処が〕無住か有住（相部屋）かを告げるべし。親近 *gocara (congenial)* か非親近 *agocara* かを告げるべし。学地認定の家 *sekhasammatāni kulāni* を告げるべし。

大便所 *vaccatṭhāna*、小便所 *passāvattṭhāna*、飲用水（の場所）、用水（の場所）、杖（の場所）を告げるべし。

サンガの約定所 *saṅghassa katikasaṅṭhāna*（地域ごとの決め事を決める場所）を告げ、いつ入り、いつ出るべきかと告げるべし。以上が旧比丘の儀法なり。

③遠行（立ち去る）比丘 *gamika-bhikkhu* の儀法

あるとき、立ち去る比丘たちが〔自分たちが使った〕木具 *dārubhaṇḍa* や土（粘土≒石鹼・陶器）具 *mattikābhaṇḍa* をしまわず、戸、窓を開けたまま、臥座処を〔片付けるのを〕尋ねず *anāpucchā* 去った。そのため、木具や土具は痛み、臥座処が守られなかった。

少欲の比丘たちが……

釈尊：「では、遠行比丘がおこなうべき遠行比丘の儀法 *vatta* を制定します」。

○

立ち去る比丘たちは、木具や土（粘土≒石鹼・陶器）具をしまい、戸、窓を閉じ、臥座処を〔片付けるのを〕尋ねて去るべし。比丘がいなければ沙弥に尋ねるべし。沙弥がいなければ〔在家の〕僧園管理人 *ārāmika* に尋ねるべし。もし比丘も沙弥も僧園管理人もいなければ、四つの石を置いて床をその上に置き *catūsu pāsāṇakesu mañcaṃ paññāpetvā*（直訳：四つの石に床を知らしめ〔設置し〕）、床に床を載せ、椅子に椅子を載せ、臥座具を上積み、木具と土具をしまい、戸と窓を閉じて去るべし。

もし部屋 *vihāra* が雨漏りし、できるなら *sace ussahati*、[隙間を] 覆うべし。あるいは [誰かに] 努めて部屋 [の隙間] を覆わせるべし。そうやってできればよし、できなければ *evañ ce taṃ labhetha icc etaṃ kusalaṃ, no ce labhetha*、[部屋の] 雨が漏らない処に四つの石を置いて床をその上に置き、床に床を載せ、椅子に椅子を載せ、臥座具を上積み、木具と土具をしまい、戸と窓を閉じて去るべし。

もし部屋全体が雨漏りするなら、できるなら、臥座具を村に運ぶべし。あるいは努めて運ばせるべし。そうやってできればよし、できなければ、露地に四つの石を置いて床をその上に置き、床に床を載せ、椅子に椅子を載せ、臥座具を上積み、木具と土具をしまい、草や葉で覆い、一部分でも残ってほしい *seseyyum* と [願って] 去るべし。以上が遠行比丘の儀法なり。